

京都駅東部エリア活性化将来構想

（素案）

目 次

I	構想策定について	1
1	構想策定の背景と目的	1
2	構想策定の基本事項	2
II	本エリアのポテンシャルと課題	4
1	ポテンシャルと課題の概要	4
2	人口・高齢化・コミュニティ	5
3	集客・観光・潤い資源	7
4	文化芸術	8
III	京都駅東部エリアの将来ビジョン	10
IV	将来ビジョンを実現させるための方策	11
1	3つの方策	11
2	推進項目	12
V	構想実現に向けて	25

I 構想策定について

1 構想策定の背景と目的

京都駅東部エリア（以下「本エリア」といいます。）は、世界と京都をつなぐ玄関口・京都駅北側周辺から、鴨川の東側にある三十三間堂、京都国立博物館など東山の文化ゾーンへと続く地域です。

本エリアには、梅小路公園を中心とする「京都駅西部エリア」と京都駅、東山とを結ぶ交流や賑わいの創出が期待される東西の「新たな文化軸」と、鴨川、高瀬川といった南北の「悠久の自然・文化軸」の二つの軸が交差する、いわば「文化の十字路口」が存在します。近年、京都美術工芸大学東山キャンパスが開校され、今後も京都市立芸術大学や京都市立銅駝美術工芸高等学校の移転が予定されるなど、文化芸術の新しい動きが生まれる“火床”となる場所であり、国内外から多くの人々が集まり、交流し、世界へ広がる創造の一大拠点となることが期待されます。

本エリアでは、これまでから、地域性、歴史性を大切にした地域を主体とするまちづくりが連綿と培われてきています。なかでも、下京涉成小学校区の5学区では、京都市立芸術大学の移転までのプロセスを大切にしながら、「京都市立芸術大学を核とした崇仁エリアマネジメント」の構築に取り組まれており、京都の玄関口にふさわしい個性豊かで魅力的なまちづくりが進められています。

また、周辺地域に関して、京都市では、平成27年3月に「京都駅西部エリア活性化将来構想」、平成29年3月に「京都駅東南部エリア活性化方針」をすでに策定しています。とりわけ、京都駅東南部エリアは、本エリアと鴨川、高瀬川や河原町通などの南北軸で繋がり、京都市立芸術大学移転予定地の南側に位置していることなどから、「文化芸術」と「若者」に重点を置いた新たなまちづくりを進めているところです。

京都市は、市会の議決を得て、昭和53年10月に「世界文化自由都市宣言」を行いました。以来、この宣言を都市理念に掲げ、「広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市」の実現に向けて、都市経営を進めてきました。

文化庁の京都への全面的な移転が決定されるなど、文化芸術によるまちづくりの機運が高まる中、本エリアの様々な主体が将来ビジョンを共有し、京都駅周辺エリアの多層な機能の連携により、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生するため、「京都駅東部エリア活性化将来構想」を策定するものです。

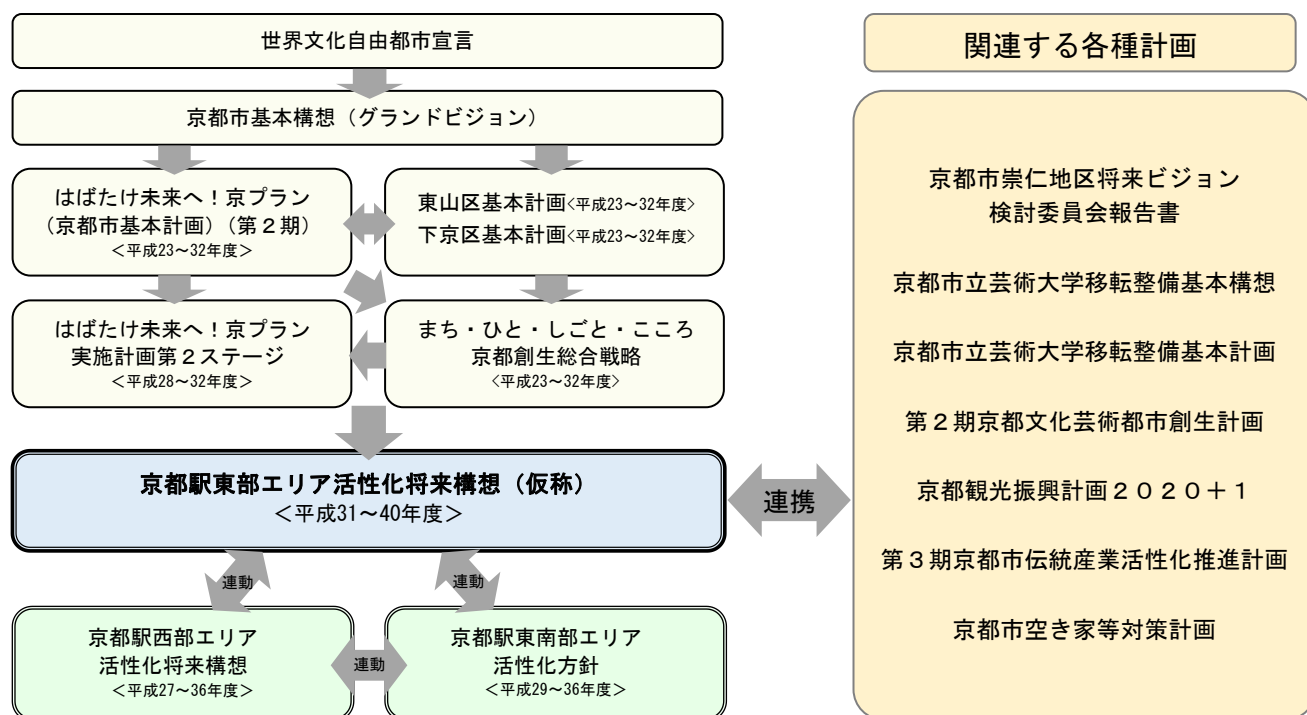
2 構想策定の基本事項

① 期間

長期的な見地に立った将来ビジョンと目指すべき将来像を設定し、それらの実現に向けて、おおよそ今後10年間（平成31～40年度）で取り組むべき3つの方策と具体的な推進項目をとりまとめました。

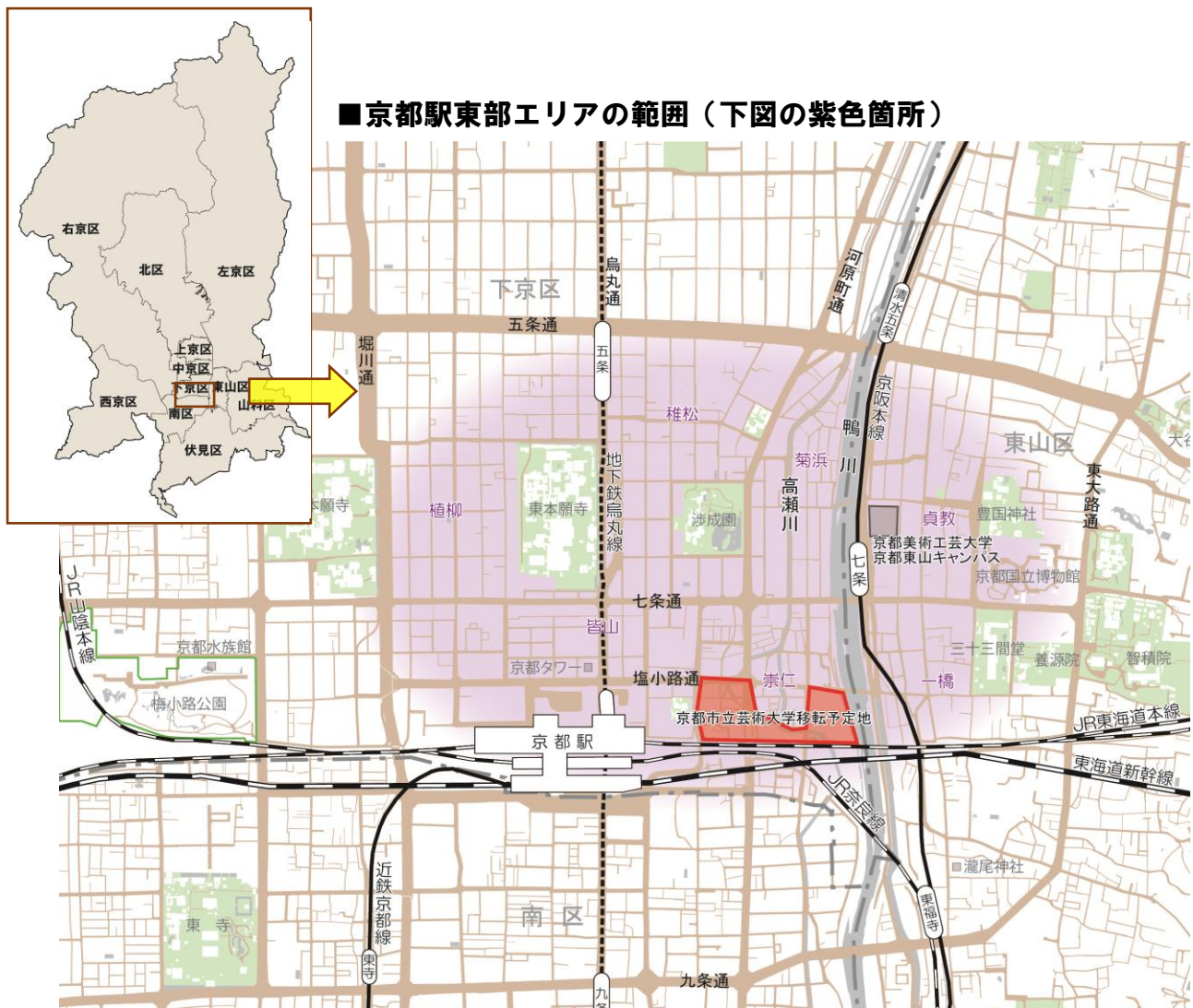
なお、平成35年度の京都市立芸術大学の移転や京都駅東南部エリア活性化方針（平成29～36年度）など、京都駅周辺の関連する各種構想等との連携を考慮し、必要に応じて、見直しを検討します。

■構想の位置付けイメージ



② 対象エリア

「京都市立芸術大学を核とした崇仁エリアマネジメント」の構築に取り組む下京涉成小学校区の5学区（植柳，稚松，菊浜，皆山及び崇仁学区）を中心に、鴨川の東側にある「京都国立博物館」や「三十三間堂」などに続くエリア一帯【概ね次頁図の紫の範囲】を「京都駅東部エリア」と位置付け、対象エリアとしました。



③ 策定にあたっての基本的な考え方

- 文化芸術と産業、観光、大学、まちづくり、教育、福祉など、様々な分野との有機的な連携を図り、京都駅西部エリア、東南部エリアなど、京都駅周辺のまちづくりとも連携させながら、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生し、新たな魅力や経済的価値の創出など、京都全体の活性化を牽引する。
- 多様で多世代の人々が交流し、豊かなコミュニティづくりにつながるまちづくりを推進する。
- 市民、地域、大学、事業者など、様々な主体が、まちの将来ビジョンを共有し、各自が、相互に尊重し合いながら、「じぶんごと」「みんなごと」としてビジョンの実現に取り組む。

II 本エリアのポテンシャルと課題

1 ポテンシャルと課題の概要

人口・高齢化・コミュニティ

ポテンシャル

- エリアの一部で人口増加
- 崇仁学区における市有地の活用
- 地域が主体となったコミュニティ活動
- 芸術系大学と地域との交流や協働によるまちづくり

課題

- 人口減少、高齢化の進展への対応
- 崇仁学区の将来活用地（市有地）の利活用の検討
- まちづくり活動と地域コミュニティの更なる活性化
- 空き家の対策

集客・観光・潤い資源

ポテンシャル

- 魅力的な歴史・文化資源や潤い資源などの存在
- 「崇仁新町」など新しい賑わい創出の動き
- 京都駅周辺における商業機能の集積
- 京都駅の立地と観光地等への充実した交通網

課題

- 回遊性の向上や賑わいの創出
- 観光と市民生活との調和

文化芸術

ポテンシャル

- 芸術系大学や文化芸術に関連する施設等の存在
- 文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手の存在
- 芸術系大学の立地によるその周辺の都市景観の向上
- 京都駅西部エリア・京都駅東南部エリアとの連携

課題

- 文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手が活躍できる環境整備
- 文化芸術など、様々な活動の情報発信と交流の促進

2 人口・高齢化・コミュニティ

ポテンシャル

○ エリアの一部で人口増加

- ・ エリア全体では人口減少や高齢化が進展する傾向にあるものの、京都駅周辺や「七条通沿いの烏丸通から河原町通までの間」、「河原町通東側の高瀬川西側の正面通から七条通までの間」など、エリアの一部では、人口が大きく増加しており、今後もその傾向が続く可能性があります。

○ 崇仁学区における市有地の活用

- ・ 崇仁学区において、住宅地区改良事業の推進に伴い、将来的に発生する利用可能な市有地については、その新たな活用が期待されます。

○ 地域が主体となったコミュニティ活動

- ・ 各学区における自治会の活動をはじめ、寺社や、京都の船運を担ってきた高瀬川、鴨川に架かる現存最古の橋梁である七条大橋など、地域性、歴史性を持った地域資源を保全・活用するまちづくりが行われています。

○ 芸術系大学と地域との交流や協働によるまちづくり

- ・ 京都市立芸術大学、京都美術工芸大学では、地域との連携、協働によるまちづくりに取り組まれており、地域の小学校での作品制作や展示会の開催、地域のイベントにおける演奏会への出演など、芸術系大学の特色も活かした地域との交流が進められています。

課 題

●人口減少、高齢化の進展への対応

エリア全体では、全市的な傾向と同様、人口減少や少子高齢化の傾向にあります。とりわけ、崇仁学区においてはその傾向が顕著であり、その進展に歯止めをかけるための対策が必要です。また、崇仁学区の市営住宅においては、空き家や住環境に係る課題があります。

●崇仁学区の将来活用地（市有地）利活用の検討

崇仁学区において、住宅地区改良事業を進める中で生み出されてきた用地の将来的な利活用のあり方について検討するとともに、住宅地区改良事業の早期完了を図る必要があります。

●まちづくり活動と地域コミュニティの更なる活性化

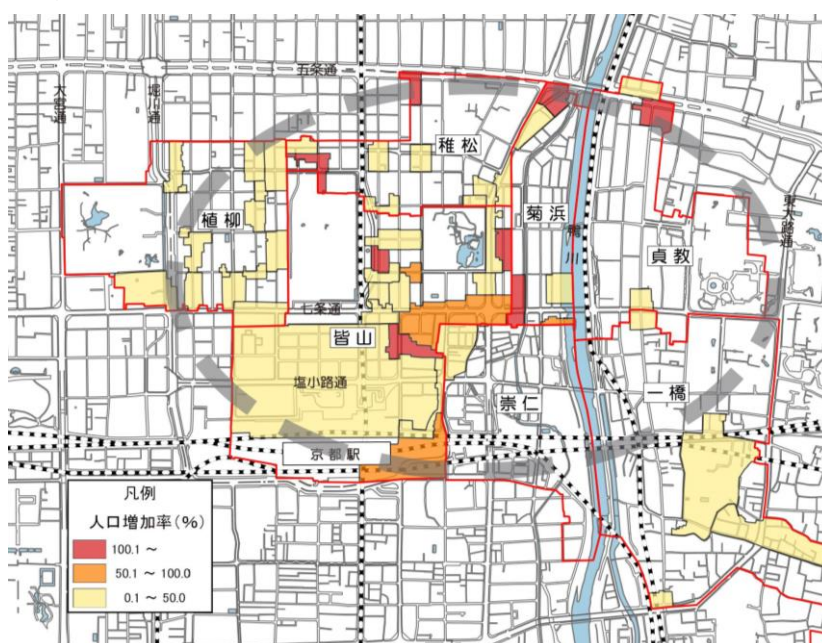
これまで培われてきた地域が主体となった活動や芸術系大学との協働によるまちづくりは、継続するとともに、今後更なる活性化が期待されます。

●空き家の対策

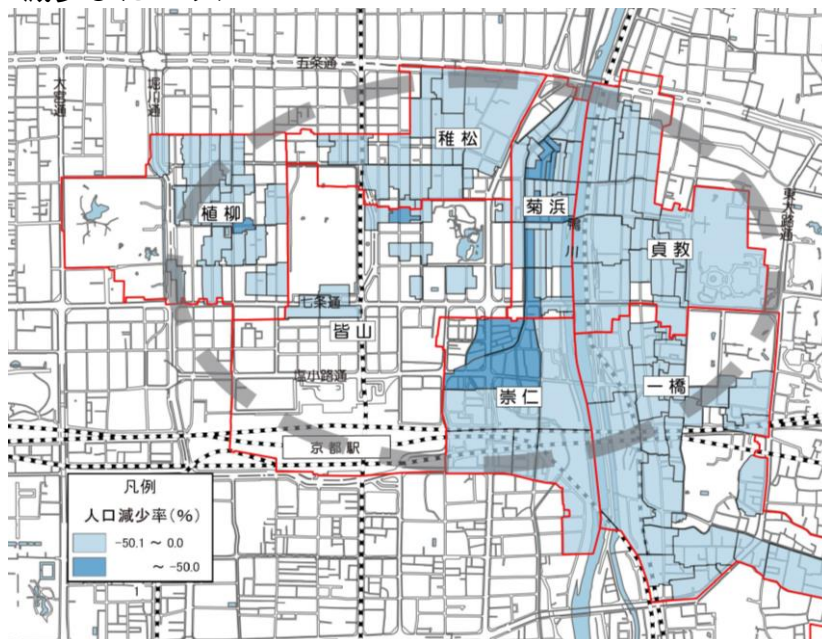
下京区や東山区の空き家率は、全市平均の値より高くなっています。とりわけ、東山区の空き家率は高齢化率とともに全市で最も高くなっています。空き家の増加は、防災上、防犯上又は生活環境若しくは景観の保全上、多くの問題を生じさせ、さらには、地域コミュニティの活力を低下させる原因の一つにもなっており、その対策が必要です。

■京都駅東部エリアの人口増減率（平成12年→平成27年）

増加したエリア



減少したエリア



※ 出典：国勢調査

3 集客・観光・潤い資源

ポテンシャル

○ 魅力的な歴史・文化資源や潤い資源などの存在

- ・ 東・西本願寺や三十三間堂、豊国神社、京都国立博物館など、世界遺産や国宝、重要文化財等、魅力的な歴史・文化資源が数多く存在しています。また、鴨川、高瀬川といった京都を代表する潤い資源があります。
- ・ 京仏壇、京仏具、京焼・清水焼、京扇子、茶筒、京真田紐、和蠟燭など、様々な伝統産業の事業所が立地し、かつての門前町らしさや伝統文化が息づく町並みを形成しています。



○ 「崇仁新町」など新しい賑わい創出の動き

- ・ エリア内では、「崇仁新町」など、地域や芸術系大学との協働によるまちづくりと連動した新しい賑わい創出の動きがみられます。

○ 京都駅周辺における商業機能の集積

- ・ 京都駅周辺においては、大型商業施設などの集客施設や宿泊施設が多く立地し、商業機能が集積しています。また、エリア内には、七条通沿いをはじめ、多くの商店街があります。

○ 京都駅の立地と市内観光地等への充実した交通網

- ・ 京都の玄関口・京都駅が立地し、京都駅を起点とした複数の鉄道・バス網により、市内観光地等へのアクセスが充実しています。

課題

● 回遊性の向上や賑わいの創出

交通ターミナル機能や集積する商業機能を有する京都駅周辺から、東山の文化エリアや歴史的都心地区（四条通、烏丸通、御池通、河原町通で囲まれたエリア）までをつなぐ回遊性を高め、商店街の活性化など、エリア全体で賑わいを創出していく必要があります。

● 観光と市民生活との調和

観光の場所、時間等の分散化により観光地の混雑を緩和し、観光満足度を高めるなど、観光と市民生活の調和が課題となっています。

4 文化芸術

ポテンシャル

○ 芸術系大学や文化芸術に関連する施設等の存在

- ・ エリア内には、平成29年4月に元貞教小学校跡地に開校した京都美術工芸大学があり、平成35年度には京都市立芸術大学の移転整備が完了する予定です。
- ・ これらの芸術系大学が立地する周辺には、工房、アトリエや伝統産業の事業所など、文化芸術に関連する施設等が立地しています。

○ 文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手の存在

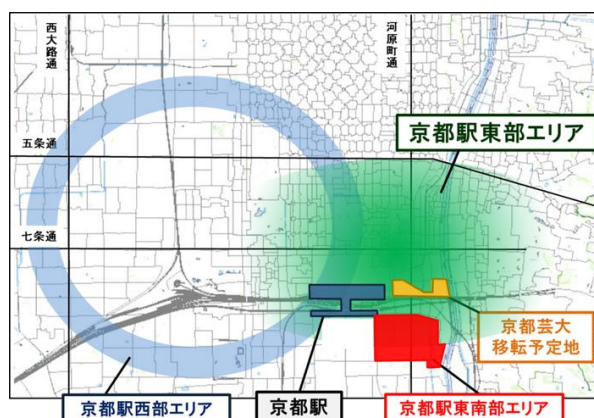
- ・ 芸術系大学の学生をはじめ、クリエイター、芸術家や伝統工芸の職人など、文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手が存在します。

○ 芸術系大学の立地によるその周辺の都市景観の向上

- ・ 芸術系大学等が、京都駅の至近にあり、かつ、鴨川など豊かな自然に囲まれたエリアに立地することにより、その周辺の都市景観についても向上の効果が期待されます。

○ 京都駅西部エリア・京都駅東南部エリアとの連携

- ・ 京都駅西部エリアと隣接する京都駅西部エリア・京都駅東南部エリアとの連携により、「文化芸術活動と産業の融合」や「雇用の創出」、「国内外からの新たな人の流れの創出」、「文化芸術とまちの共生」の実現が期待できます。



京都駅西部エリア…多彩な地域資源をつなげ、京都の新しい賑わいを創出するまち

京都駅西部エリアでは、多彩な地域資源をつなげ、「居住」「業務」「集客」それぞれの面で、京都の新しい賑わいを創出することを目指している。

この新しい賑わいを、特に京都リサーチパークや産業技術研究所を核とした新事業・ソーシャルビジネス創出の取組の成果やものづくりを活用して、京都駅に近接した本エリアで起業する企業・人の誘致を図ることができれば、本エリアの活性化を強力に推進することができる。

京都駅東南部エリア…「文化芸術」と「若者」を基軸としたまちづくり

京都駅東南部エリアは、京都駅東部エリアに隣接する立地特性等を踏まえ、エリアのまちづくりに「文化芸術」という新たな視点を取り入れることにより、「新たな価値を生み出す創造・発信拠点」の誘致等に取り組み、若手芸術家をはじめとする若者を呼び込み、文化芸術の「創作、発信」を進めるエリアとして位置付けている。

このように、若手芸術家等が創作・創造活動を行い、発信していく場である東南部エリアと本エリアがそれぞれの特色を活かしながら、人の往来や交流も含めた相乗効果を生むことで、京都駅周辺に「文化芸術都市・京都」の新たな文化ゾーンを創出していくことができる。

課 題

●文化芸術や伝統産業など、様々な分野の担い手が活躍できる環境整備

芸術系大学の学生をはじめ、クリエイター、芸術家や伝統工芸の職人など、文化芸術や伝統産業に携わる担い手が活躍できる環境づくりを推進していく必要があります。

●文化芸術など、様々な活動の情報発信と交流の促進

コミュニティと共生した文化芸術活動を推進するため、文化芸術など、様々な活動を外部に「見える化」し、発信していくとともに、市民と、芸術系大学の学生やクリエイター、芸術家との交流を促していく必要があります。

Ⅲ 京都駅東部エリアの将来ビジョン

京都市立芸術大学の移転などを契機として、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生し、過去、現在の時間を紡ぎ、新しいまちの未来を拓くため、本エリアの将来ビジョンを設定します。

■京都駅東部エリアの目指すべき将来ビジョン及び将来像

●将来ビジョン

「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生し、
人と人、人と地域が繋がるまち

●将来像

子ども・若者から高齢者まで、
安心・安全に暮らし、
誰もが集い、交流し、
活力のあるまち

京都の玄関口・京都駅及び
その周辺と東山の文化エリア
を結ぶ立地にふさわしい、
賑わいのあるまち

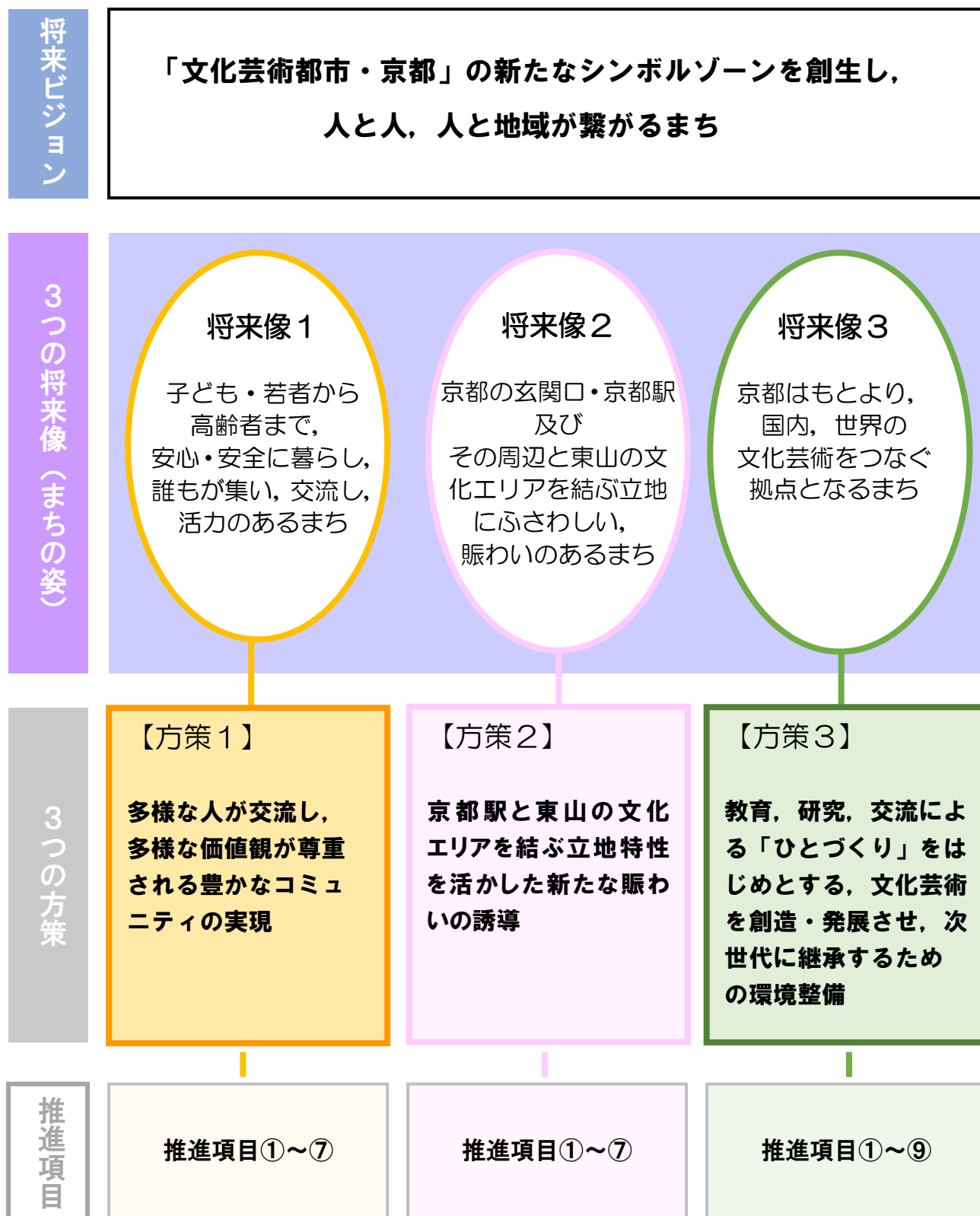
京都はもとより、
国内、世界の文化芸術をつなぐ
拠点となるまち

Ⅳ 将来ビジョンを実現させるための方策

1 3つの方策

将来ビジョン実現のために取り組むべき方策を以下に掲げます。

構想の全体像



2 推進項目

【方策1】多様な人が交流し、多様な価値観が尊重される豊かなコミュニティの実現

誰もが文化芸術を創造し、享受することができる環境づくりなどのまちづくりを推進することにより、人口減少や高齢化への進展にも対応したコミュニティの担い手の育成を支援するとともに、住民同士や住民と学生、訪れる方との交流を促し、相互理解を深めることにより、安心・安全で豊かなコミュニティの実現を目指します。

推進項目①

誰もが文化芸術活動に参画できる環境の推進

子どもから高齢者、障害のある方まで誰もが文化芸術活動に参画することができるよう、教育、福祉その他の分野とも連携した体験型イベントの開催など、アウトリーチ活動*を推進します。

また、文化芸術活動の発表の場づくりや文化ボランティアの参加を促すなど、文化芸術を創造し、支える環境の充実を図ります。

* 出前授業、出張講座等、利用者のもとへ出向いて実施する様々な教育普及活動のこと

取組例

大学と地域との協働による文化芸術活動の推進

現在、京都市立芸術大学では、移転プレ事業として、元崇仁小学校の職員室を改修した「ギャラリー崇仁」における展覧会の開催のほか、地域のイベントに参加するなど、地域と協働した取組を進めています。今後も、このような身近で誰もが文化芸術活動に参画できる環境づくりを推進します。

子どもたちが文化芸術や伝統産業に触れ、学び、体験する機会の提供

小中学校に芸術家や伝統産業の職人を派遣し、出張授業や体験教室等を行うことにより、子どもたちが文化芸術や伝統産業に触れ、学び、体験する機会を創出します。

文化ボランティア活動の推進

市民や芸術家、企業等で文化芸術活動をサポートできる方を文化ボランティアとして登録し、サポートを必要とされる市民や芸術家、企業等との橋渡しを行うなど、人と人をつなぎ、文化芸術活動を支える環境を充実します。

推進項目②

地域資源や自然環境を保全・活用したまちづくりの推進

地域資源や自然環境を保全・活用するまちづくり活動を推進します。

また、地域性、歴史性を持った、芸術的、学術的価値の高い文化財の継承、活用を通じて、地域への愛着、誇りを高めるまちづくりを促進します。

現在の取組例

高瀬川とまちづくり活動

高瀬川は、京都と伏見をつなぐ水運として、慶長19年（1614年）に角倉了以・素庵によって開削され、人々の生活とまちの発展を支えてきました。

「菊浜高瀬川保勝会」や「崇仁高瀬川保勝会」では、月1回、高瀬川の清掃を行い、子どもたちの環境学習などにも取り組まれています。



高瀬川

七条大橋の魅力を高めるまちづくり活動

七条大橋は、鴨川に架かる現存最古の橋であり、大正期のモダンデザインを残すなど、地域の個性的な景観を形成し、市民の誇りとなっている貴重な文化財産であり、平成31年に国登録有形文化財に登録される見込みです（平成30年11月に答申済）。

「七条大橋をキレイにする会」では、毎月7日に七条大橋の清掃活動に取り組むとともに、「七条大橋ライトアップ」事業を実施するなど、七条大橋を大切にされるとともに、その景観的価値を高めるための様々な活動を実施されています。



七条大橋

推進項目③

芸術資源や地域情報の収集・保存・活用

芸術資源，地域情報等のデジタルアーカイブ化を支援し，教育研究分野や地域の担い手育成など幅広い活用に向けた取組を推進します。

取組例

芸術資源等のデジタルアーカイブ化の推進

京都市立芸術大学等において，芸術作品や地域の風景，まちづくりの記録など，地域情報のデジタルアーカイブ化に取り組み，その創造的な活用を推進します。

推進項目④

交流スペースとしての公共空間の活用

鴨川，高瀬川や歩道，京都市立芸術大学敷地内の広場など，公共空間を活用して，住民，学生をはじめ，多様な人の交流する場を創出します。

取組例

京都市立芸術大学敷地内の広場の利用の検討

高瀬川沿いのオープンスペースや，柳原銀行記念資料館を活用して，地域との交流・連携も進められるよう整備します。

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校基本設計イメージパース



高瀬川をのぞむ

推進項目⑤

子育て世帯等の市営住宅入居促進

人口減少や高齢化の進展に対応し、地域の活性化を図るため、子育て世帯の市営住宅の入居を促進します。

また、市営住宅の空き部屋を若手芸術家の制作、居住の場として活用します。

推進項目⑥

空き家対策の推進

安心・安全な生活環境の確保、まちづくり活動の促進、良好な景観の保全及び地域コミュニティの活性化のため、空き家の発生の予防や活用・流通を促進します。

また、若手芸術家などの居住・制作・発表の場としての空き家の活用を促進します。

取組例

京都市地域連携型空き家対策促進事業の推進

空き家の発生の予防、活用及び適正な管理によって、地域が活性化することを目指し、空き家所有者や入居希望者が安心して活用できる環境を整備するため、地域主体の空き家対策の取組を支援します。

推進項目⑦

住宅関連事業の推進と将来活用地の活用

崇仁学区において、住宅地区改良事業などの早期完了を目指して取組を進め、これらの事業で生み出されてきた用地の将来的な利活用のあり方を検討します。検討を通じて、住み続けられ、共に暮らすまちづくりの推進と「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生にふさわしい、新たな創造・交流・賑わいにつながる機能の導入を目指します。

導入する機能の方向性

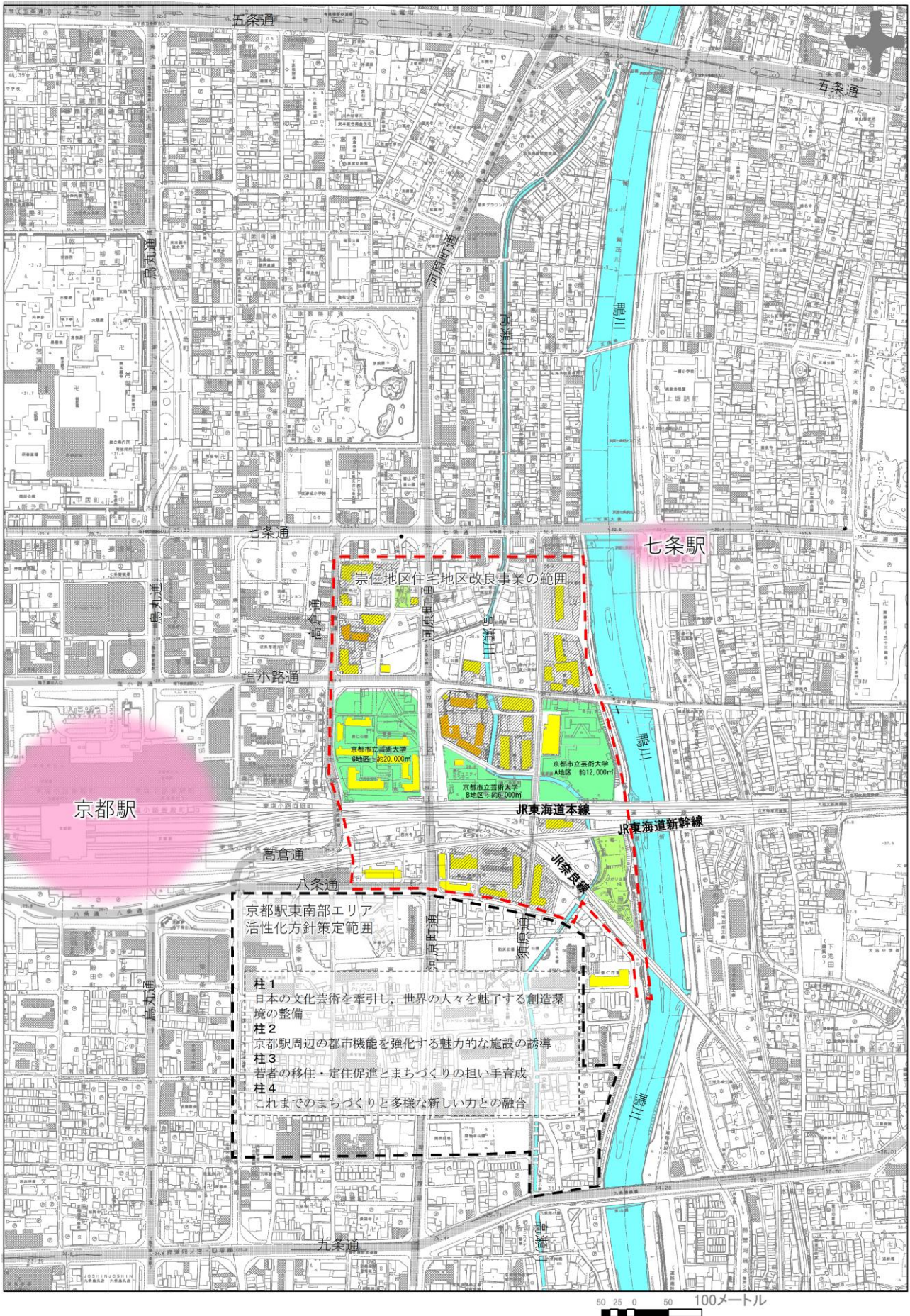
京都市では、広く世界と文化的に交わることにより、優れた文化を創造し続ける、永久に新しい文化都市としてのまちづくりを進めています。

崇仁学区において創出する将来活用地は、京都の都心部では極めて希少な活用可能用地です。また、その活用にあたって、世界と京都をつなぐ玄関口・京都駅との近接性や京都市立芸術大学の移転整備、京都駅東南部エリアとの結節点などの立地条件やポテンシャルを最大限に活かす必要があります。

そのため、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創生に向けて、文化芸術と産業、観光、大学、まちづくり、教育、福祉など、様々な分野の融合により、新たな魅力や経済的価値を創出する機能を誘導するための検討を進めます。

併せて、人口減少や少子高齢化にも対応し、地域で暮らす誰もが安心して住み続けられるまちづくりを推進するため、生活を支える商業・医療・福祉・業務などの機能の充実に向けて、活用を検討します。

【位置図】



【方策2】京都駅と東山の文化エリアを結ぶ立地特性を活かした新たな賑わいの誘導

京都駅から東山の文化エリアや市内中心部を結ぶ本エリアの利便性の高い立地性を活かし、本エリアの地域資源と文化芸術を融合させた賑わい機能の誘導など、文化芸術・伝統産業の振興に資する新たな魅力や賑わいの創出に取り組むことにより、本エリアや、隣接する京都駅西部エリア、東南部エリアをはじめ、京都駅周辺ひいては京都全体の活性化に寄与します。

推進項目①

新たな賑わいの創出と商店街及び周辺地域の活性化

地域のまちづくりや商店街と連携，協働し，芸術を融合させた新たな賑わいづくりを推進するなど，商店街及び周辺地域の活性化を図ります。

取組例

崇仁北部第四住宅地区改良事業用地の暫定活用による新たな賑わいづくり

河原町通塩小路北西角の事業用地において，民間活力を活用し，地域における新たな賑わいづくりや地域コミュニティの活性化につながる暫定活用を行います。

<事業概要>

毎週土曜日及び日曜日に，イベントスペースでのパフォーマンスや，物品販売，飲食など，60店舗以上を集めたマーケットを展開します。新しいブランドを立ち上げる若者や個性的な個人事業者等が参加することで，京都の事業者を中心に，この場所から新しい潮流・文化を生み出します。

推進項目②

歴史的・文化的建造物等の活用

会議やレセプションなど、様々な機会を通じて、美術館や博物館、歴史的建造物などを、“京都らしい”ユニークベニュー*として活用していくことを推進します。

*歴史的建造物や文化施設、公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場

現在の取組例

京都国立博物館

平成知新館講堂や平成知新館グランドロビー、庭園を活用した様々なイベント、レセプションに対応しています。



※出典 「京都ユニークベニューガイド2018」(発行：公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー)

推進項目③

文化財等の活用による観光振興

寺社や施設等での朝の体験型メニューの充実や夜間開館など、新たな観光コンテンツの開発や積極的な情報発信に取り組みます。

推進項目④ 京都の文化に触れる機会の充実

修学旅行生や外国人観光客に対して、伝統産業や食文化などの体験メニューの充実を図ります。

取組例

京都工房コンシェルジュ事業

伝統産業を体験したい市民や観光客等と工房の橋渡しを行い、職人の匠の技・心に触れ、伝統産業を見て、触れて、買える機会を充実します。



推進項目⑤ 文化芸術に関するイノベーションの創出や伝統産業の振興

文化芸術と産業技術の研究機能を融合し、新たな技術・商品開発等、文化芸術に関するイノベーションや伝統産業の振興を促進します。

また、文化芸術作品等の制作に係る資材等のリサイクルの仕組みを検討します。

推進項目⑥

文化芸術を“五感”で感じながら、安心・安全で楽しく回遊できる環境づくり

沿道のギャラリーや潤いを感じられる歩行空間など、訪れる人が文化芸術を歩きながら“五感”で感じることでできる魅力あふれる空間を創出します。

また、便利に移動できるよう多様な移動手段を活用することで、更なる利便性の向上に努めます。

取組例

塩小路通沿いにおけるギャラリーの設置

京都市立芸術大学の1階にギャラリー@K^アC^アU^アAと芸術資料館を配置し、塩小路通沿いにおいて大学の芸術活動を発信するとともに、京都駅から東山へ至る動線の魅力向上を図ります。

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校基本設計イメージパース



河原町塩小路より

京都市立芸術大学周辺における歩道の拡幅等

京都市立芸術大学の移転整備に伴い、同大学周辺において、安心・安全で、快適な歩行空間を確保するため、歩道を拡幅します。また、無電柱化を検討します。

シェアサイクル機能の充実

民間事業者によるシェアサイクルの拠点の充実など、より便利な移動環境づくりを推進します。

推進項目⑦（再掲）

住宅関連事業の推進と将来活用地の活用

【方策3】教育、研究、交流による「ひとづくり」をはじめとする、文化芸術を創造・発展させ、次世代に継承するための環境整備

芸術系大学をはじめ、多彩で魅力的な文化芸術資源が集積し、京都における文化芸術の創造と継承の土台となる「ひとづくり」を担う本エリアのポテンシャルを活かし、教育、研究機能の充実や、更なる世界との交流や発信を推進し、「文化首都・京都」の都市格向上を力強く牽引します。

推進項目①

多様な創造活動拠点としての世界に向けた発信

京都市立芸術大学を核に、国内外の教育・研究機関や担い手を受け入れ、学術、研究、交流が活発化することで、世界に向けた発信力を高めます。

推進項目②

文化芸術活動を活かした国際交流の促進

世界中の芸術家が京都に集い、共同で制作したり、発表できる場を創出することにより、市民や国内外から訪れる方との国際的な交流を推進します。

推進項目③

文化芸術・伝統産業など様々な分野における多様な担い手の育成

京都市立芸術大学や京都美術工芸大学の学生をはじめ、若きクリエイター、若手芸術家、ボランティアなど多様な担い手を育成・支援します。

取組例

東山アーティスト・プレイスメント・サービス(H A P S)による若手芸術家等の支援

H A P Sにおいて、若手芸術家等の様々な相談に対応する総合サポート窓口を設置し、芸術に適した空き家の紹介や閉校施設等の活用による制作場所の提供、専門家のネットワークによる発表活動の支援など、若手芸術家等が地域に根差した活動を行えるような取組を推進します。

推進項目④

先進的な研究・創造活動に取り組む場の創出

文化芸術を核に、科学・医療・福祉・産業技術など、ジャンルを越えた交流や協働の機会を創出します。

推進項目⑤

文化芸術の発信の場としての公共空間の活用

芸術系大学周辺の歩道、鴨川・高瀬川や駅周辺など、公共空間を文化芸術作品の展示、演奏やパフォーマンス等の発信の場として活用します。

推進項目⑥

芸術系大学と施設の連携による文化芸術の振興

芸術系大学と文化芸術関連施設が連携し、文化芸術の振興を推進します。

取組例

共通のテーマを持った展覧会の開催

芸術系大学と京都国立博物館をはじめ市内各地の文化芸術関連施設が連携し、共通のテーマのもと、展覧会の開催を検討します。

推進項目⑦

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校の移転整備に伴う都市景観の向上

施設の形状、色彩、デザイン、外観など、移転整備により、鴨川・高瀬川をはじめ、周囲の景観と調和した都市景観を創出します。

取組例

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校の移転整備

鴨川・高瀬川の岸边景観、東山の眺望などの地域の景観特性や、周辺の住環境への影響などを十分に考慮するとともに、地域のまちなみ景観形成への寄与や都市デザインの観点からキャンパス全体と各施設の建築デザインを総合的に検討し、京都における新たな景観の創造に向けて整備を行います。

京都市立芸術大学・京都市立銅駝美術工芸高等学校基本設計イメージパース



推進項目⑧

文化庁と連携した文化芸術の発信

文化庁と連携し、文化芸術、文化財や伝統文化など、「文化首都・京都」の多様な魅力を発信します。

推進項目⑨（再掲）

住宅関連事業の推進と将来活用地の活用

V 構想実現に向けて

1 関係者間での将来ビジョン等の共有

構想の実現に向けては、本構想に示されたまちの将来像や方策、推進項目などについて、市民、地域、大学、事業者などで、その方向性の共有を図り、連携しながら、取組を進めていきます。

2 多様な主体の連携による協働のまちづくりの推進

将来ビジョンの実現に向けては、行政のみならず、市民、地域、大学、事業者などの多様な主体の参画を促すとともに、特に文化芸術関係の分野を含め、京都駅の東南部エリアや西部エリアなどの周辺地域とも連携を図りながら取組を進めていきます。